



2026年 加温ハウスぶどう病害虫防除暦

JA 中野市園芸課

JA 中野市ぶどう部会

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)	収穫前使用時期	使用回数	散布量(ℓ/10a)	対象病害虫(発生病害虫)	注意事項
カイガラムシ類発生園地は主幹・主枝の粗皮削りを行う【耕種的防除】							
/	発芽直前	① 展着剤(ハイテンパワー) 10 ℓ パスポート顆粒水和剤 400 g	休眠期	1回	250	晩腐病 黒とう病	
発芽直後 カイガラムシ類 特別対策		樹幹塗布 水 20 ℓ アルバリン顆粒水溶剤 20 g	幼果期まで	塗布1回	1樹当り 20-40 ℓ	コナカイガラムシ類 クビアカスカシバ	塗布方法 ① 水:アルバリン=1:1で調合 ② 目安:直径 10 cm以上樹 20 ℓ、直径 20 cm以上 樹 40 ℓ ③ 主幹分岐部下 30~50 cm程度、粗皮削りし塗布する。
/	展葉6枚目頃	② 展着剤(ハイテンパワー) 10 ℓ トランスフォームプロアブル 50 ℓ ジマンダイセン水和剤 100 g	3日前 45日前	3回 2回	300	べと病・晩腐病 褐斑病・黒とう病 さび病 アザミウマ類 カイガラムシ類	① 薬害発生回避のため、高温時には散布しない。 ② 注意:ジマンダイセン・ゾーベックエニベル顆粒水和剤等のマンゼブ成分を含む農薬の年間使用回数は2回までとする。
特別散布		展着剤(ハイテンパワー) 10 ℓ フェニックスプロアブル 25 ℓ	14日前	2回	300	スカシバ類・ケムシ類 ハマキムシ類 ハスモンヨトウ	
/	展葉9枚目頃	展着剤(ハイテンパワー) 10 ℓ ストマイ液剤 20 100 ℓ	満開予定日 14日前~ 開花始期	1回	300	無種子化	① 花穂に当たるようたっぷり散布する。
/	展葉7~11枚頃	展着剤(ハイテンパワー) 10 ℓ フラスター液剤 ℓ	新梢展開葉 7~11枚時 (開花始期まで)	2回	150	着粒増加 新梢伸長抑制	① 品種により倍率が異なるため、散布前に必ず登録内容(ラベル等)を確認する。 シャインマスカット・クイーンルージュ®: 2,000倍 種なし巨峰: 500~800倍(10a当り 100~150ℓ) ナガノパープル: 500~800倍 ② 弱樹勢樹や若木等は新梢伸長が弱る可能性あるため、散布を控える。
/	開花直前	③ 展着剤(ハイテンパワー) 10 ℓ トクチオン水和剤 125 g ロブラー水和剤 66 g	45日前 60日前	3回 3回	300	灰色かび病・白腐病 (黒とう病) アザミウマ類 コナカイガラムシ類	① 灰色かび病防除重点事項 • 温度管理を徹底し、生育ステージを揃える。 • 開花直前・落花直後の防除を10日以内で実施する。 • 花穂(果房)にしっかりと薬剤をかける。 ② 主幹・主枝部にも薬液が到達するようにする。
/	落花直後	④ アミスター10プロアブル 100 ℓ グレーシアプロアブル 25 ℓ カネマイツプロアブル 100 ℓ	30日前 7日前 14日前	3回 2回 1回	300	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病 黒とう病・さび病 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ ハスモンヨトウ・ハダニ類	① カイガラムシ類の発生園はコルト顆粒水和剤 3,000倍(前日、3回)を加用する。 ② 汚れや果粉溶脱の恐れがあるため、散布遅れに注意する。
/	満開10日後	【強樹勢特別散布】 登録品種:シャインマスカット・ ピオーネ・ナガノパープルのみ フラスター液剤 200 ℓ	満開 10 日~ 20 日後、但し 60 日前まで	2回	150	新梢伸長抑制	① 登録品種:シャインマスカット、ピオーネ、ナガノパープルのみ(ナガノパープルは、収穫前日数(60日前)に注意する)。 ② 弱樹勢や若木等は新梢伸長が弱る恐れがあるため、散布を控える。
特別散布 落花10日後		オンリーワンプロアブル 50 ℓ	前日	3回	300	晩腐病・褐斑病 黒とう病・うどんこ病 灰色かび病・白腐病 すす点病・さび病	① 汚れや果粉溶脱の恐れがあるため、散布遅れに注意する。 ② 褐斑病の発生がある園地は必ず散布する。
特別散布 (袋かけ後)		展着剤(ハイテンパワー) 10 ℓ モベントプロアブル 50 ℓ	7日前	3回	300	カイガラムシ類 ハダニ類・アザミウマ類 ブドウサビダニ	① カイガラムシ類、ハダニ類発生園は散布する。 ② 主幹害虫対策:主幹・主枝にも薬液が到達するようにする。
袋かけ後以降のハダニ類発生園は、コロマイト水和剤 2,000倍(7日前、2回、10a当り 300ℓ)を特別散布する。							
/	収穫後	⑤ 展着剤(アビオナーE) 50 ℓ ムッシュボルドーDF 200 g	—	—	400	べと病 さび病	① 褐斑病多発園地 対策:ムッシュボルドーDFに代えてジマンダイセン水和剤 1,000倍(45日前、2回)を使用する。*注意:ジマンダイセン・ゾーベックエニベル顆粒水和剤等のマンゼブ成分を含む農薬の年間使用回数は2回までとする。 ② ムッシュボルドーDFに代えてクミガードSCの1,000倍を使用してもよい。
/	ビニール除去後	⑥ 展着剤(アビオナーE) 50 ℓ ICボルドー66D 2.5 kg ダイアジノン水和剤34 100 g	— 30日前	— 2回	400	べと病・(さび病) アブラムシ類 ハマキムシ類 ミドリヒメヨコバイ クワコナカイガラムシ 若齢幼虫	① ICボルドー代替:ムッシュボルドーDFの500倍又はクミガードSCの1,000倍を使用してもよい。ただし、ムッシュボルドーDFを使用する場合は、高温時や降雨後の散布で薬害を生じる恐れがあるため、クレフノン100倍を加用する。
/	8月下旬	⑦ 展着剤(アビオナーE) 50 ℓ ICボルドー66D 2.5 kg	—	—	400	べと病 (さび病)	

◆ 安全・安心の農産物生産のために使用基準を厳守しましょう。

当防除暦の複製・コピーを禁止します。

◆ 混用例: 展着剤 ⇒ 液剤 ⇒ 乳剤 ⇒ 顆粒水溶剤 ⇒ 水溶剤 ⇒ フロアブル ⇒ ドライフロアブル(DF) ⇒ 顆粒水和剤(WDG) ⇒ 水和剤